

H&BIKINO GUIDE M&P

大阪府南河内地域に位置する羽曳野市は歴史の宝庫。歴史の街をあなたも探索してみませんか？

古墳 寺社 墓地 旧跡

1 応神天皇陵古墳

▲羽曳野市誉田6丁目



5世紀前半に築造された、墳丘の長さ425m、後円部の直径250m、高さ35m、前方部の幅300m、高さ36mの、古市古墳群最大の前方後円墳です。墳丘は3段に築かれ、周囲には二重の濠と堤をめぐらせています。

2 白鳥陵古墳

▲羽曳野市軽里3丁目



羽曳野丘陵から東に延びる台地のある、墳丘の長さ200m、後円部の直径106m、高さ20m、前方部の幅165m、高さ23mの5世紀後半に築造された大型の前方後円墳です。日本武尊の白鳥陵に治定されています。

3 墓山古墳

▲羽曳野市白鳥3丁目



古市古墳群の中央部にある、全長225m、後円部の直径135m、高さ21m、前方部の幅153m、高さ19mの大型の前方後円墳です。周囲には濠と堤をめぐらせ、4基の陪塚（はいづか付属の古墳）を配置しています。

4 峯ヶ塚古墳

▲羽曳野市軽里2丁目



墳丘長96mの前方後円墳です。古市古墳群の中ではそれほど大きな古墳ではありませんが、墳丘の外側には二重の周濠を有します。墳丘は二段築成で、上段斜面の裾部分には瓦石が施されています。

5 栗塚古墳

▲羽曳野市誉田6丁目



応神天皇陵古墳の東側にある、一辺43mの方墳です。現在、墳丘は宮内庁によって、応神天皇陵古墳の陪塚として管理されています。発掘調査で、大型の円筒埴輪、家、大、鶏や人の形等の形象埴輪が出土しました。

6 誉田丸山古墳

▲羽曳野市誉田



応神天皇陵古墳の北側の堤に接するように造られた、直径50mの円墳で、東側に小さな張り出しが付く可能性があります。江戸時代に発見された豪華な鍔金具は、誉田八幡宮に所蔵されています。

7 東馬塚古墳

▲羽曳野市誉田6丁目



応神天皇陵古墳の東側にあり、陪塚（付属の古墳）の一つと考えられます。一辺の長さ30m、高さ3.5mの方墳で、墳丘の周囲には円筒埴輪が並べられ、5世紀前半に築造されたと推定されます。

8 ニツ塚古墳

▲羽曳野市誉田6丁目



応神天皇陵古墳の東側の堤に接する位置にある、墳丘の長さ110mの前方後円墳です。この古墳の存在によって、応神天皇陵古墳の濠と堤の形が定められていることから、ニツ塚古墳が先に造られたと考えられます。

9 誉田八幡宮

▲羽曳野市誉田3丁目2-8
☎072-956-0635



縁起によると、欽明天皇のときに応神天皇陵の前に社殿を営み、平安時代の後冷泉天皇のときに、現在の地に移ったことが伝えられます。源頼朝寄進と伝えられる神輿など、数多くの宝物が所蔵されています。

10 向墓山古墳

▲羽曳野市白鳥3丁目



一辺の長さ68m、高さ10.7mの、5世紀前半に造られた大型の方墳です。墳丘の西端は墓山古墳の堤と重なる位置にあり、堀で区画されています。墓山古墳と同時に築造された陪塚と考えられます。

11 西馬塚古墳

▲羽曳野市白鳥3丁目



一辺の長さ45m、高さ9.4mの2段に築成された方墳です。墳丘の周囲には幅6.8m、深さ1.4mの濠がめぐり、円筒埴輪、形象埴輪、須恵器が出土しています。5世紀後半に造られたと推定されます。

12 白鳥神社

▲羽曳野市古市1丁目1-18
☎072-956-9758



古市の産土神とされ、もとは1.2km西方にあった伊岐宮（いきのみや）が、江戸時代に現在地に移り、日本武尊（やまとたけるのみこと）と素戔鳴命（すさのおのみこと）を祀っています。秋の祭礼は、だんじりの巡行で賑わいます。

13 長圓寺

▲羽曳野市古市1丁目4-16
☎072-956-8917



江戸時代はじめの寛永9（1632）年、僧孝順（こうじゅん）によって開かれたとも伝えられています（『大阪府全志』）。平安時代に作られた木造の「十一観音立像」が伝わり、重要文化財に指定されています。

14 西琳寺

▲羽曳野市古市2丁目3-2
☎072-956-0603



7世紀前半に渡来系氏族の西文氏（かわちのふみうじ）等によって創建された、南河内でも最も古い寺院の一つです。境内には塔の心柱を支えた巨大な礎石が残り、みことな浮き彫りで装飾した鰐尾（しひ）が出土しています。

15 安閑天皇陵古墳

▲羽曳野市古市5丁目



高さ8mほどの丘の上に築造された、墳丘の長さ122m、後円部の径78m、前方部の幅100mの前方後円墳です。中世には高屋城の一部に利用され、江戸時代には古代ペルシャ製のガラス碗が発見されたことが伝えられています。

16 翠鳥園遺跡公園

▲羽曳野市翠鳥園2-10-101



およそ2万8千年前の多数の石器作りの跡が発見された翠鳥園遺跡は、遺跡公園として公開されています。二上山付近で産出するサヌカイトを用いた旧石器時代の石器作りのようすを、説明板や写真で紹介しています。

17 清寧天皇陵古墳

▲羽曳野市西浦6丁目



6世紀前半に築造された、墳丘の長さ約115m、後円部の径63m、前方部の幅128mの前方部が大きく発達した前方後円墳です。墳丘の外側にめぐらされた濠は、一部で二重に掘られています。

18 小口山古墳

▲羽曳野市軽里2丁目



平地を見下ろす丘の上にある、7世紀代に造られた直径約30mの円墳です。内部には長さ2mもある巨大な凝灰岩（ぎょうかいがん）をくり抜いて、棺を納める部屋を作った、めずらしい構造の埋葬施設が設けられています。

19 来目皇子墓

▲羽曳野市はびきの3丁目



一辺の長さ約54m、高さ10mの大型の方墳です。来目皇子は聖徳太子の弟で、新羅遠征の將軍に任じられたが、推古天皇11（603）年、病のため没し、のちに河内の埴生山の岡の上に葬られたことが『日本書紀』に記されています。

20 法泉寺

▲羽曳野市野々上3丁目4-32
☎072-955-9548



野中寺の別院とされていましたが、宝暦年間（1751～1764）になって黄葉宗に改宗し、野中寺観音堂の聖観音立像を移して本尊としました。大坂夏の陣の際には、真田幸村がこの寺の弁財天像を火災から守ったと伝えられています。

21 野中寺

▲羽曳野市野々上5丁目9-24
☎072-953-2248



聖徳太子の命により、蘇我馬子が建立したと伝えられ、「中の太子」とも呼ばれています。金剛弥勒菩薩半跏像（こんどうみろくぼさつはんかそう）は重要文化財に指定され、境内には塔や金堂の跡が残っています。

22 大津神社

▲羽曳野市高鷲8丁目1-2
☎072-955-0945



江戸時代には「河内の大宮」「丹下の大社」とも呼ばれ、周辺の9か村の氏神として崇敬されていました。平安時代の『延喜式』の神名帳に記載され、祭礼の際には朝廷から進物がおくられました。

23 雄略天皇陵古墳

▲羽曳野市島泉8丁目



雄略天皇の陵は、『古事記』では「河内の多治比（たじひ）の高鷲（たかじ）にあり」と記されています。現在は直径75mの島泉丸山古墳と一辺の長さ50mの島泉平塚古墳が前方円形に整備され、丹比高鷲原陵として治定されています。

24 明教寺

▲羽曳野市島泉2丁目2-22
☎072-939-3162



寺伝によれば、推古天皇の発願で鳳凰寺が創建され、奈良時代には称徳天皇より高麗山鳳凰堂明教寺の名を賜り、南北朝から戦国時代には堂宇が兵火にかかることもありましたが、豊臣秀吉の保護により再建されたといえます。

25 吉村家住宅

▲羽曳野市島泉5丁目3-5



大坂夏の陣（1615年）の直後に再建されたといわれる庄屋の住宅で、茅葺きの大きな屋根が特徴です。客室は桃山時代の書院造りの様子を留め、装飾に趣向が凝らされています。江戸時代の民家の代表例として、重要文化財に指定されています。

26 大塚山古墳

▲羽曳野市南恵我之荘7丁目



墳丘の長さ335m、後円部の径185m、高さ20m、前方部の幅230mで、幅の広い濠がめぐらされた全国第5位の大きさの前方後円墳です。築造時期は詳しくわかっていません。

27 大黒寺

▲羽曳野市大黒499
☎072-956-0953



寺伝によれば、役小角（えんのおづめ）が彫った大黒天像を祀る堂を建てたのが始まりとされています。境内には七福神の石像が建ち並ぶ大きな風景を見ることができ、法堂には観音様も祀られ河内西国八幡札所にもなっています。

28 杜本神社

▲羽曳野市駒ヶ谷64
☎072-921-2711



経津主命（ふつぬしのみこと）・経津主姫命（ふつぬしのひめのみこと）を祭神としています。平安時代には飛鳥戸造（あすかべのみやつこ）一族の祖先を祀っていたと考えられ、「延喜式」神名帳では、名神大社に列せられていました。

29 飛鳥戸神社

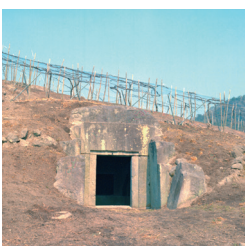
▲羽曳野市飛鳥1023-6



竹内街道に沿う飛鳥の家並みを抜けた、丘の上にある神社で、古くは渡来系氏族、飛鳥戸（あすかべ）氏の祖先、百濟王族の瓊枝王（こんさおう）を祀っていたと言われ、平安時代には名神大社として治定されていました。

30 観音塚古墳

▲羽曳野市飛鳥



見晴らしのよい丘の上にある、7世紀代に造られた、15mほどの方墳、または円墳です。内部に設けられた横穴式の石室（石槨）は、安山岩の切石をモザイクのように組み合わせた精巧なものです。

31 源頼信の墓

▲羽曳野市通法寺



源頼信は摂関家に仕えて東国各地の地方官に任じられるとともに、関東の戦乱で武功を挙げ、河内の壺井を本拠として河内源氏の発展の礎を築きました。永承3（1048）年に没すると、この地に葬られたと言われています。

32 源義家の墓

▲羽曳野市通法寺



河内源氏の三代目、源義家は武勇の誉れが高く、八幡太郎とも呼ばれました。陸奥の守（かみ）と鎮守府將軍に任じられ、折しも勃発した後三年合戦で奮戦しました。嘉承元（1106）年に義家が没すると、平家一門が国政を掌握しました。

33 源頼義の墓

▲羽曳野市通法寺



源頼信の嫡男で河内源氏の家督を継いだ源頼義は、前九年合戦などの戦いで武功を挙げ、東国への源氏勢力を広げました。承保2（1075）年に没すると、法堂には観音堂の下に葬られたと言われています。

34 通法寺跡

▲羽曳野市通法寺



通法寺は壺井に館を構えた河内源氏の氏寺で、礎石が並ぶ堂の跡や江戸時代の鐘堂と山門が残っています。長久4（1043）年、河内源氏の源頼義がみつけた千手観音像を本尊とした精舎がはじまりと伝えられています。

35 壺井八幡宮

▲羽曳野市壺井605-2
☎072-956-2824



康平7（1064）年、東北地方への遠征を終えた河内源氏の源頼義らが、石清水八幡宮の神霊を勧請し創建されました。源義家の愛用という鎌や太刀が伝えられ、境内には樹齢800年を超えるクスノギがそびえ立っています。